



**2023年
2月号**

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 瀬山 会治

印刷所
文明堂印刷所

「主の祈り」と共に歩む大齋節

司祭 オーガスチン 與賀田 光嗣

今年2月22日(水)から大齋節が始まります。

大齋節第一主日の聖書箇所は、イエス様が洗礼を受けた後に何をされたかという記事です。イエス様は誰もいない寂しいところへ行かれ断食を



され、誘惑を受けられました。ここを読むとあることに気づきます。この物語でイエス様が空腹を覚えられたのは、十日の断食の間ではありませんでした。「四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた(マタイ4・2)」のです。断食をしている間ではなく、それが終わった後、空腹を覚えられたのです。私たちは本当に誘惑に陥る時とは、何かをなしておえたという時です。自分は頑張ったという達成感を得たとき、そこに大きな誘惑があるので。自分の経験や経歴や様々なことをその手に握りしめてしまおうでしょうか。その手の中には、意味のないプライドが造られ、傲慢さが生まれるのです。握りしめた手が開かなくなってしまう。誰かに触れることができなくなってしまう。それは自分しか見えていない状態です。これが、誘惑です。

イエス様は公の活動を始める時に洗礼を受けられました。ですからイエス様に従って生きていくということの第一歩が洗礼式です。洗礼式文には「神の助けによって」主に従っていくことが書かれています。

よくよく考えますと私たちは常に「神の助けによって」命が与えられ、様々な人々と出会いが与えられ、良心が与えられ、今という瞬間が与えられています。ぎゅっと拳を握りしめて、意味のないプライドを持ちたり、自分の弱さを隠したりする必要はないことに気づかされます。この気づきをすぐに忘れてしまうのが私たち人間です。

だからこそ「神の助けによって」自分があるという思いを胸に刻むことが大切です。それは、胸に十字を刻むこともそうでしょう。自分の十字

架、イエス様の十字架を思い起こすためです。

イエス様は十字架の前夜、最後の晩餐の後に弟子たちを連れ、ゲッセマネにて「父よ」と呼びかけ「御心に適うことが行われますように(ルカ22・42)」と祈られました。イエス様が祈っておられるというのに弟子たちは寝てしまっています。そんな彼らのために「誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい(マタイ26・41)」と声をかけられます。ここに「主の祈り」の前半部分と後半部分が描かれています。

つまり「主の祈り」には、常に私たちのために祈られるイエス様の姿があるのです。「主の祈り」をあなたが唱える時、確かにイエス様があなたの隣りで、あなたのために祈っておられます。「神の助けによって」、「主の祈り」によって、この大齋節を共に歩んで参りましょう。

神戸国際大学
附属高等学校チャプレン